

指導資料

鹿児島県総合教育センター

国語 第124号

— 小, 特別支援学校対象 —

平成24年10月発行

単元を貫く言語活動を位置付けた 小学校国語科の学習指導法の改善

新しい学習指導要領では、生きる力を育むことを目指し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うために、言語活動を充実することとしている。

そこで本稿では、どのような言語活動をどのように設定すれば、国語の能力をより効果的に育成することができるのか、「単元を貫く言語活動」をキーワードに述べる。

1 国語科における「言語活動の充実」

国語科においては、「基本的な国語の力を定着させたり、言葉の美しさやリズムを体感させたりするとともに、発達の段階に応じて、記録、要約、説明、論述といった言語活動を行うことによって、実生活に生きてはたらき、各教科の学習の基本ともなるべき国語の能力を培うこと」が、「言語活動の充実」である。これに対し、他教科においては「各教科等の目標の力を定着させたり、各教科等の目標を実現させたりするための手立て」が、「言語活動の充実」である。

ただし、このように他教科と比較してみただけの場合に注意しておかなければならないのは、国語科においては言語活動の充実を図ることが目的であるように受け取られがちであるということである。「言語活動の充実に関する指導事例集（小学校版）」には、次のように整理してある。

- 平成20年答申の国語科改訂の趣旨に示す「実生活で生きてはたらき、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること」を一層重視して国語科の授業改善を図ることが求められる。
- そのためには、学習指導要領の内容の(2)に示す言語活動例を基に、具体的な言語活動を通して、指導事項を指導することが大切である。その際、「ここで音読する」「ここで話し合う」といったばらばらの活動ではなく、児童が自ら学び、課題を解決していくための学習過程を明確化し、単元を貫く言語活動を位置付けることが必要である。

つまり、国語科における言語活動も、目標である国語の能力を育成するために指導事項を指導する際の、手段なのである。そのために、学習指導要領においては、目標が能力・態度で構成されており、内容の(1)が指導事項、(2)が言語活動例となっている。言語活動が目的化してしまうと、いわゆる「活動あって学びなし」の状態に陥ってしまい、読むことの内容を、児童に確

実に身に付けさせることができなくなるので、注意が必要である。

このような「手段」としての言語活動をどのように設定するか、ということを明確に述べているのが、「単元を貫く言語活動」なのである。

2 「単元を貫く言語活動」について

(1) 「単元を貫く言語活動」とは

「単元を貫く言語活動」とは、当該単元を通して、一連の学習の過程に即して位置付ける言語活動のことである。国語科の目標を達成させ、思考力・判断力・表現力の育成に向けて言語活動を充実させるためには、学習指導要領の内容(2)の言語活動例を参考にして、一貫性のある言語活動を位置付ける必要がある。

(2) 単元を貫く言語活動を位置付けた指導計画のイメージ

例えば「ごんぎつね」を主教材に、単元を貫く言語活動として、感想交流会を位置付けた場合、単元の指導計画を、図1のようにイメージしている。

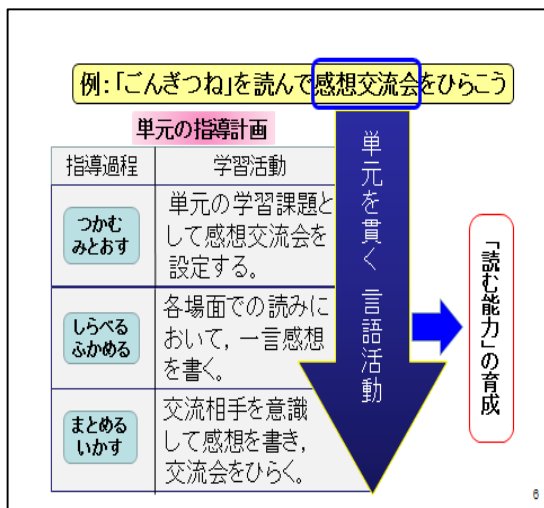


図1 単元を貫く言語活動の例

まず、単元の「つかむ・みとおす」の段階では「感想交流会をひらこう」という「単元の学習課題」が設定される。これが「しらべる・ふかめる」の段階では「ごんぎつね」の各場面の読み取りにおいて、一言感想を書く活動も入れることによって、課題の解決に向けた「しらべる・ふかめる」段階と「まとめる・いかす」段階が有機的に関連付けられる。更にその感想の累積をもとに、相手意識をもたせて発表する感想の原稿を書かせ、交流会を開くことによって、その単元で行う言語活動がすべて、読む能力の育成に向けて一貫することになる、このような言語活動を、「単元を貫く言語活動」と捉えている。

単元の初めから終わりまで、子どもの目的意識や相手意識などを一貫させることで、伸ばしたい国語の能力を確実に育成することが可能になると考える。

3 単元を貫く言語活動を位置付けた単元構想の順序

このような単元は、どのような順序で構想すればよいのだろうか。これまでも、「読み書き関連指導」など、一つの単元において「読む」活動と「書く」活動を相互に関連付け、思考力・判断力・表現力を育成しようといった取組がなされ、高い効果を挙げている。しかし、「読む」活動の後に「書く」活動を位置付けただけの安易な単元構想（教材文の読み取り+パンフレット作成など）だと、今何のためにこの授業をしているのか、子ども自身がもてないまま言語

活動に取り組む（取り組まされる）ことになり、平板で主体性のない活動に陥る危険性がある。身に付けさせたい力を確実に育成するためには、図2のように単元を構想することが重要である。

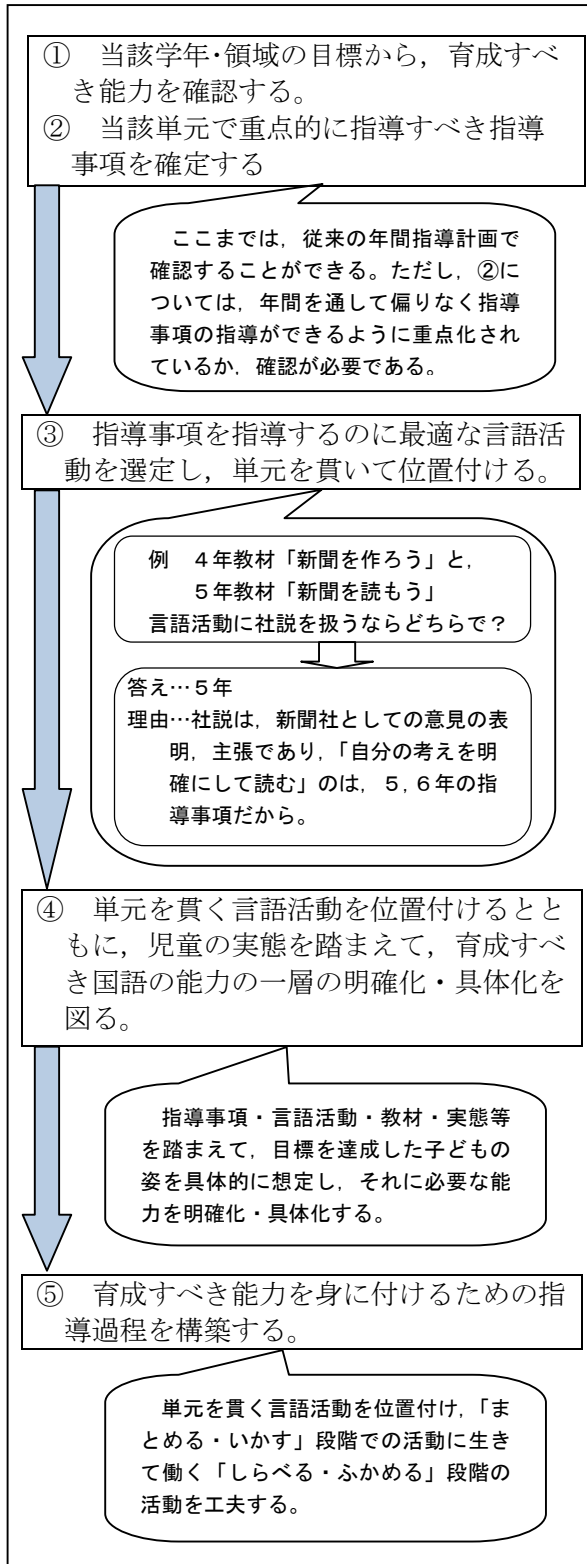


図2 単元構想の順序

4 「読むこと」における単元を貫く言語活動を位置付けた指導計画の具体化

(1) 読書の意義を踏まえた読書活動の設定

「読むこと」の領域においては、全学年において、読書態度に関する目標が示されているとともに、目標をもって読書し、日常的に読書に親しむようにすることや、図書館の利用の仕方などが、内容に位置付けられている。このように読書に取り組ませることの意義は何なのか。平成16年に文化審議会が答申した「これからの時代に求められる国語力について」には、次のように述べられている。

読書習慣を身に付けることは、国語力を向上させるばかりでなく、一生の財産として生きる力ともなり、楽しみの基ともなるものである。(中略) 情報化社会の進展は、自分でものを考えずに断片的な情報を受け取るだけの受け身の姿勢を人々にもたらしやすい。自分でものを考える必要があるからこそ、読書が一層必要になるのである。「自ら本に手を伸ばす子どもを育てる」ことが切実に求められているのである。

このような意義を確実に踏まえた上で、指導事項に示された、読書に関する指導を行うための読書活動を、単元を貫く言語活動と、有機的に関連させながら設定することが重要である。例えば、シリーズものなどの並行読書を行うとともに、家庭学習において、その日に授業で行ったこと（場面ごとに一言感想を書くなど）を、自分が選んだ本で行っておく。それらを集約し、交流相手を意識した表現形式で、感想文を書いて交流すると、より思考力・判断力・表現力を育成する、活用型の単元を構想することができる。

(2) 単元を貫く言語活動を位置付けた指導計画の例

1 単元名「読んで思ったことを話し合おう『ごんぎつね』」(全14時間)

2 単元の目標

- 場面の移り変わりに注意しながら、性格や気持ちの変化を基に、登場人物の人物像について、想像して読むことができる。(ウ)
- ◎ 文章を読んで考えたことを発表し合い、互いの考えの共通点と相違点を考えながら話し合うとともに、一人一人の感じ方の違いに気付くことができる。(ウ)
- 目的に応じて引用や要約をしながら書くとともに、書いたものを発表し合い、書き手の考えの明確さなどについて意見を伝え合うことができる。(エ,カ)

過程	時	主な学習活動	指導の具体的な手立て
つかむ・見通す	1	1 これまでの物語の読み方を振り返る。	単元を貫く言語活動：登場人物の人物像に焦点を当てた感想を書いて交流する <ul style="list-style-type: none"> ・ 前単元の学習（「物語を読んでしようかいしよう『一つの花』」において、会話や心情表現、行動に着目し、人物の気持ちについて考えて書く力は付いてきたが、互いに紹介し合っても、一人一人の感じ方どのような違いがあるのかということに十分気付くことができていなかったため、この学習では、それが指導の重点になるということを確認する。 ・ 登場人物の会話や行動から、気持ちの変化や性格を表にまとめて読み取る際には、文に書き表すのではなく、会話や行動の記述の必要な部分だけを抜き出すことが重要であることを指導する。また、授業内容を家庭学習に生かせるようにするために、ワークシートの形式をそろえるとともに、家庭学習を自力でできるようにするためのガイドを準備する。 ・ 字数については、これまでの書く活動における経験や実態から、感想を書くのに必要な時間を想定し、位置付ける。書くことについての個人差を解消するためのワークシートを適宜使用させる。 ・ 学習活動4、5で学習したことを生かし、家庭学習で書きためた感想メモを集約し、感想交流に適したひとまとまりの文章にまとめさせる。 ・ 一人一人の感じ方の違いから、友達の発表した本についても読んでみようという読書意欲をもたせるようにする。
	2	2 教師の範読を聞き、初発の感想を書く。 3 感想を発表し合い、単元の学習課題・学習計画を設定する。 【単元の学習課題】 きつねが出てくる本を読んで、どんなきつねだと思ったかを交流しよう。	
調べる・深める	3	4 場面ごとに読み、「ごん」と「兵十」の行動や気持ち、それらから分かる性格を表に整理する。 ※ 家庭学習においても、きつねが登場する物語を並行読書して、感想をメモしておく。	
	8	5 4で整理した「ごん」の気持ちの変化や「兵十」との関係から「ごん」の人物像についての考えを、感想として100字程度でまとめる。	
振り返る・生かす	9	6 書いた感想を交流する。	
	10	7 並行して読んだ物語に登場するきつねの人物像について100字程度でまとめる。	
	11	8 書いたものを交流し、意見や感想を伝える。	
	14		

単元を貫く言語活動の位置付けは、指導事項の重点化と育成すべき国語の能力の明確化・具体化があって初めて可能となる。ぜひ学習指導要領と自校の年間指導計画（国語・読書指導）を再確認し、どのような言語活動を単元を貫いて位置付ければ、日常生活に生きてはたらき、各教科の学習の基本ともなる

国語の能力をより効果的に育成できるか、工夫していただきたい。

－参考文献－

- 『小学校国語学習指導要領解説 国語編』平成20年 文部科学省
- 『言語活動の充実に関する指導事例集』平成21年 文部科学省
- 『小学校国語科言語活動パーフェクトガイド』平成22年 水戸部 修治 編著 明治図書

(教科教育研修課)